

残胃癌に対する低侵襲手術の有用性について

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

残胃癌手術は胃癌手術の中でも高難度な手術であり、術後合併症リスクも高くなります。当院ではこれまで開腹手術を中心に実施してきましたが、近年は低侵襲性を期待して腹腔鏡もしくはロボット支援下手術を積極的に導入しております。今回、当院でこれまで実施されてきた腹腔鏡もしくはロボット支援下手術の安全性と有効性について過去の症例から検証を行っていきます。

【対象】

2010年～2022年に当院で残胃癌の診断で手術を実施された患者さん

【情報の利用目的及び利用方法】

調査、研究、学会や医学論文で発表いたします。

【調査項目】

年齢、性別、胃癌の進行度、同時性、異時性、手術アプローチ、胃切除術、病理結果、手術合併症、再発部位、無再発期間、全生存期間

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【調査対象期間】

2010年1月1日 ～ 2022年12月31日

【利用する者の範囲】

関西労災病院 消化器外科 杉村啓二郎

【試料・情報の管理について責任を有する者】

関西労災病院 消化器外科 杉村啓二郎

【研究期間】

実施許可日から 2024 年 12 月 31 日（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

【当院の研究責任者】

杉村 啓二郎

関西労災病院 消化器外科

〒660-8511 兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69

TEL: 06-6416-1221（代表）

FAX: 06-6419-1870（代表）

E-mail : sugimura-keijiro@kansaih.johas.go.jp